

# ジェイン・ジェイコブズ生誕百年記念シンポジウム

## 次は経済学の番だ ジェイン・ジェイコブズの問題提起から

塩沢由典

# ジェイン・ジェイコブズ紹介

- 1916年5月4日米ペンシルバニア州スクラントン生まれ
- 1937年ニューヨークに移住
  - 雑誌記者(女性誌、業界紙『アイアン・エイジ』、国務省『アメリカ画法』)など
- 1952年
  - 『アーキテクチュラル・フォーラム』編集者
- 1955年～68年住民運動(ジェイコブズ対モーゼス)
- 1961年『アメリカ大都市の死と生』
- 1968年 家族とともにカナダ(トロント)へ移住
- 1969－2000年 経済学4部作
  - 『都市の原理』『発展する地域 衰退する地域』(都市の経済学)『市場の倫理 統治の倫理』『経済の本質』
- 2006年4月25日死去

# ジェイン・ジェイコブズの一般的評価

---

## ●『死と生』

- 20世紀の都市計画思想を一変させた。

## ●経済学4部作

- 正統派経済学⇒いちぶ例外をのぞき、無視。
- 地域経済学(ジェイコブズ効果/グレイザー)

## ●日本での受け止め

- 好意的受け止め(宇沢弘文、香西泰)
- 隠れファンが多いのでは。100年を記念にCO.

# 経済学の奴隷？

## ●ケインズ『一般理論』最終章・末

- 経済学者や政治哲学者の思想は、それが正しい場合にも間違っている場合にも、一般に考えられているよりはるかに強力である。...権力の座にあって天声を聞くと称する狂人たちも、数年前のある三文学者から...考えを引き出しているのである。...遅かれ早かれ、良かれ悪しかれ危険なもの、既得権益ではなく思想である。(ケインズ『一般理論』最終章・末)
- 政治家・国民・経済学者も

# 表題:「次は経済学の番だ」

---

## ●都市計画思想

- ジェイコブスは、20世紀の都市計画思想を一変させた。

## ●経済学

- ジェイコブズは、21世紀の経済学を一変させる。

## ●現状⇒今日の課題

- 大きなメッセージを持っている。
- じゅうぶん受け止めていない。理解が足りない

# 経済学の危機と好機

---

## ●2008年経済危機

- 既存経済学に対する反省
- Rethinking Economics (若者の反乱 2000フランス)

## ●正統経済学

- 現在の経済学はコペルニクス直前の天動説
- プトレマイオス体系 精緻で予測精度は高かったが、根本のところでもちがっていた。

## ●新しい経済学は見えている。

# ジェイコブズの経済学

---

- **ふつうの経済学ではない。**
  - ミクロ経済学・マクロ経済学などではない。
- **経済の発展=進化**
  - 進化・発展の論理 『都市の原理』『発展する地域 衰退する地域』(都市の経済学)
  - その単位と機構を考えた
- **経済システムは均衡系ではない。**
  - 『経済の本質』⇒ **経済は散逸構造だ。**(塩沢解釈)

# 新しい仕事はどう生まれるか

---

## ● ローゼンタール夫人とブラ(EC2)

- EC 第2章「新しい仕事はどう始まるか」
- 1920年代初め(既製服の生産・販売始まる)のNY
- ローゼンタール:町の洋装品店

## ● 仕立てた品を装着

- 当時の下着: コルセット、ペティコート、etc.
- ブラジャーを試作、お客へのサービス
- ブラ製造・卸に専念



# 経済学にとってのジェイコブズ

## ● 進化経済学

- 商品・技術・行動・制度・組織・システム・知識
- あたらしい商品、仕事の誕生
- その環境としての都市

## ● 複雑系経済学

- 最適化は不可能、定型行動の進化
- 都市とはどういう種類の問題か(『死と生』22章)
  - ◆ 複雑系(組織された複雑の問題)

## ● 倫理体系論(『市場の倫理 統治の倫理』)

# 経済学再建への展望(私見)

- 基本の枠組みは進化経済学
- 価格理論の革新
  - ✕ 需供の法則⇒価格変数の需要関数・供給関数
  - ✕ ミクロ経済学(新古典派経済学、一般均衡理論)
  - 生産費価値説(リカード)      ✕ 労働価値説
- 古典派価値論(進化経済学の価格理論)
  - 国内価値論、地代論(枯渇資源論)
  - 国際価値論      ◆ 労働市場論、金融経済の理論

# アベノミクスとJane Jacobs

- アベノミクスの(旧)3本の矢
  - (1)大胆な金融政策
  - (2)機動的な財政出動
  - (3)民間投資を喚起する成長戦略
- 円安と株価高騰/異次元の金融政策
  - インフレ率2%も実現せず
  - マイナス金利出動に追い込まれる。
- 経済成長(経済発展)の本質が分かっていない。
  - JJのECおよびCWは、この問題を扱っている。
  - アベノミクスがうまく行かない理由・対策については『今よりマシな日本社会をどう作れるか』SURE, 3013.7。

# 成長戦略はなぜ不発か。

## ● 日本社会の大きな変化

- キャッチアップ時代の終焉 (1980年代まで)
- 世界でもっとも急速な高齢化(問題先進国)

## ● 政策策定システムの不適応

- キャッチアップ時代⇒先進国の成功事例を導入
- 問題先進国になったのに、人々の頭の中はキャッチアップ時代のまま。(官僚、学問、教育など)

## ● なにが必要か。

- 既存の経済学と政策体系ではすまない。

# 政策を進化論から考える。

## ● 社会・経済

- 複雑で進化するものなら、不介入が一番？
- 新自由主義、ワシントン・コンセンサス
- 経済学者 M.フリードマン、F. v. ハイエク

## ● 複雑で進化するものだからこそ、それにふさわしい設計が必要

- David Ellerman (UC Riverside 数学・哲学・経済学)
- 並列実験(parallel experimentation)

# すぐれた育種家はどうしているか

- 母集団を適切な大きさに分割する。
  - 大きすぎると、進化速度が遅くなる。
  - 小さすぎると、絶滅しやすい。
  - 小集団の良い特性を交配によって拡大する。
- 中国とヨーロッパ
  - 明の時代 鄭和のインド洋進出(1405-1431)
  - コロンブス(1492) ヴァスコダガマ(1497)
  - なぜ後発のヨーロッパが新大陸と南アジアを征服し、中国はできなかったのか(ジャレド・ダイヤモンド)

# 直列実験と並列実験

---

## 直列型戦略

- いまの丘を登る
- 深堀
- 深さ優先探索
- 定住農業
- 少数の籠に卵
- K選択

## 並列型戦略

- より高い丘に飛躍
- 広く浅く
- 広さ優先探索
- 移動遊牧
- 多数の籠に分散
- S選択

# 社会・経済における並列実験(1)

---

## ● 中央直轄か連邦制か

- ドイツ・合衆国、連邦制
- イタリア、フランスなど道州制へ
- 日本 幕藩体制は連邦制、薩摩・長州・肥前・...

## ● 独占企業か企業間競争か(rivalry)

- M. ポータ、R. ネルソン
- 燕三条(吉川智教)、ロチェスタ(JJ)

## ● 一党制か多党制か



# 社会・経済における並列実験(2)

## ● 科学共同体(小集団による競争)

- 日亜化学と中村修二
- 基礎物理 100の仮説が出て、1つが生き残る。

## ● 日本の会社

- ダイバーシティ・マネジメント(受身の対策になっている)
- プロセス・イノベーションに強く、プロダクト・イノベーションに弱い。(改善に強いが、新基軸を生みにくい。)

## ● ベンチャー

- なぜ必要か。大企業にとっても重要なこと。
- ベンチャー学会(日本・関西)

# まとめ

---

- ジェイコブズは、都市の多様性・複雑性が発展の基盤であり、その環境を作ると考えた。
- 進化を制御するという考え方から、あらゆる領域で多様性を生かすことが求められている。(国、企業、大学、...)
- ジェイコブズから学ぶべきことは多い。